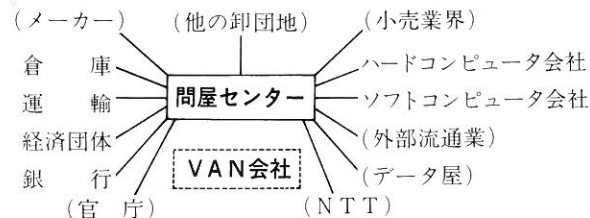


堀川 温泉旅館でもPOSを導入、在庫減らしをした。
 島田 薬業界でも月3万円で、小売店向けに全部行っている。3、4ヶ月でマスターできた。
 堀川 支配できるような形でない。どのパートナーと組むかが問題。100%自前は難しい。そういった方とコミュニケーションをとりたい。



伊藤 情報処理をするか、情報発信か。

堀川 パワーがないと負ける。

島田 組合としてVAN会社を共同事業として活動していくには、自分のところの最低のコンピュータは必要。それ以上必要なものはVAN会社へお願い。安くて強力なところに流れる。

越原 流通ネットワークを作るためにとりかかるとは、関係先みんな必要だが。

山下 基本的なフォーマットができていないと資金はでない。

石黒 基本的にはコンピュータ会社のコンピュータの

一部を使う。

荒木 てっとり早くするには、VAN会社につなげる。

石黒 VAN会社をもっている情報処理センターを利用すると安上がり。

堀川 間借りするのでは。

石黒 運営だけは握っておかないとネットワーク加盟と同じ。VAN会社に相談しないと費用はでてこない。遠い所の会社だと回線費用の問題がある。バカにならない。参加する人によっては物流から始めてもいいが。
 堀川 今後、頭の中は同じだが、作業は別々にしていきたい。

さて、企画委員会では、VAN構築具現化に向けて一層の活動に踏み切っていますが、一番大事なことは「情報化をすすめることによって、何を求めていくか」という明確な効果を描いておくことであります。受発注を合理化することで物流コストを軽減させる直接的効果も充分考えられますが、大きな将来の構想として、共同配送センターと共同倉庫があります。いま一つは、情報化することによって蓄積される情報をどのように使いこなしていくかを企業ごとに検討しておかねばなりません。つまり、集まった情報をどうやって生かすかが最も重要な課題になります。

(企画委員会)

「体験いろいろ きものの集い」

1月15日、金沢市清川町のセンチュリープラザで'89 MRO成人の日フェスティバル「体験いろいろ きものの集い」(共催・石川県和装振興会)が開かれ、好天にも恵まれて新成人約300名が参加した。

タレントの羽賀研二さんを迎えて、きものショーやゲームの他、グアム島旅行の当たる抽選会もあり、盛りだくさんの内容であった。



金沢流通会館よりの お知らせ

会議室をご利用のお客様よりご要望の多かった移動用のテレビとビデオデッキを購入致しました。貸出料金は次の通りです。

■テレビ(29型) 3,000円 ■ビデオデッキ(VHS) 2,000円

金問屋センターニュース

1989.1 No.43

協同組合 金沢問屋センター 金沢市問屋町2丁目61番地 ☎37-8585 ●発行者/小川甚次郎



昭和の天皇には、1月7日午前6時33分崩御されました。御歳87歳、在位62年でございました。

昭和の天皇には、先の大戦を始め苦難の戦争時代や戦後の平和、日本の復興の時代を経て今日のめざましい経済大国の時代まで、波瀾万丈の一生でございました。当問屋センター組合員一同心からご病氣のご平癒を願っていましたが、誠に残念であります。組合員一同、謹んで奉悼の意を表し、心からご冥福をお祈りいたしたいと存じます。

(編)金沢問屋センター

理事長 小川甚次郎

昨年の経済は、個人消費及び民間設備投資の伸びなど内需拡大の影響をうけ、団地内でみると各社好調な一年で推移致しました。

今年も昨年同様好況が予想されておりますが、問題は我々流通業が特に反対していた消費税が昨年暮に成立し今年4月より施行されますが、これが我々卸売業界にどのような影響を与えるか、導入初年度で未知数であり、

机上では最終消費者が負担する為全く影響ないといわれておりますが、しっかりした管理体制がなければ税金面での圧迫は間違いなく、又、事務の複雑化等好況の反面厳しい年になると思われます。

これに対処するには厳しい競争の中ではありますが、消費税を転嫁するのが当然であるという強い企業となるよう、組合員一同頑張りたいと思います。

これからは流通業の経済環境が大きく変わろうとしており、それらに乗り遅れない為に、現在企画委員会において小売店との受発注を基本としたオンライン構築を、来春稼働を目的に研究中であります。この事業は多数の組合員参加が無ければ運営が困難な為、実施されたならば組合員各位の絶大なるご協力をお願いし、時代の要請に対処したいと考えております。終りに組合員各位の益々のご繁栄を祈念し、年頭の挨拶と致します。

'89 新年互礼会

昨年に引き続き雪のないお正月を迎え、協同組合金沢問屋センターの新年互礼会は、1月4日午後2時より金沢流通会館大ホールパルスにおいて来賓、組合員270名が参加して開かれた。

国歌斉唱に引き続き、小川理事長から「消費税が導入され厳しい競争の年になるが、強い企業となるよう組合員一同頑張りたい」と挨拶があった。

次いで中西知事、江川市長、宮商工会議所会頭、奥田、森両衆議院議員、嶋崎、沓掛両参議院議員より祝辞を賜り、末岡市議会議員の発声の下に乾杯を行い祝宴に移った。美妓のお酌で話がはずみ、本年も盛況の内に終了した。



初市風景



金沢問屋センター繊維同業会（八田隆年会長）吉例の初市が1月6・7日の両日、各社会場にて行われた。

今年の春夏婦人服は、軽やかで優しい女らしさが人気でカドがとれてほっそりしたナチュラルライン、軽やかに舞うフレアやプリーツなどのイメージをつくりあげており、マニッシュなテラードスタイルが変化をみせている。

昨年大ヒットしたボディコンだが、今年はソフトコンシャスへと移りそうで、男性にとっては、ちょっぴり残念(?)。

年男大いに語る



消費税(平成)元年

東和工業(株) 取締役総務部長
佐藤 昭典

昭和64年(平成元年)1989年は己巳(つちのと、み)の年だとの事、120年前は明治2年(1869年)版籍奉還、戊辰戦争終結、東京遷都、といわゆる「ご一新」文明開化の年でした。60年前は昭和4年(1929年)私が生まれた年であり「緊縮財政」の名のもと厳しいデフレ政策が井上準之助大蔵大臣によりうち出され、そして10月24日のニューヨーク株式大崩落による「世界大恐慌」の前振りの年でありました。そして今年(1989年)は日本税制始まって以来の「大型消費税」が税制改革の名のもと4月1日より実施となっており、その上に天皇が崩御され元号も平成と改元されたのですから本当に経済にとって「ご一新」激動の年になるかも知れません。消費税は直間比率見直しの大義名分であり、現実

に年末調整では源泉税の減税が先行しました。然し政府発表では消費税3%の税収は約3兆円、減税5兆円と云っているのですから消費税は早急3%以上となる事は確実であります。又、政府は物価の上昇は1.4%程度と試算していますが果してそうでしょうか。川上より川下の流通が多段階な日本経済の現況では従来の利益確保を優先するとすれば末端消費者への転嫁される価格はとても1.4%でない様に思えます。

「消費は美德なり」の名のもと内需拡大をして来た経済は一転「消費は税金なり」の買控運動が平成元年の後半期消費者の間に起きないという保証は何もありません。正夢となるか逆夢となるか不透明の平成時代の幕明けが本日(平成元年1月8日)あけました。



新たな商人像

中嶋帽子 店主
中嶋 正治

今始まっている高度情報化社会では、従来の農業、工業、商業という分業で役割を担うことにより社会が支えられていたものを否定する社会構造の変化が顕われはじめています。すなわち、つくる人、売る人と分ける必要はないのであって、生活者が必要とする物を知る人が生産手段の保有の有無にかかわらず、つくることも売ることもできる人がいたらどんどんやっていける時代になってきているようです。そういう意味では、商にはそれぞれ個人がイノベーションでできる可能性が大いにたかまわっていると思います。例えば付加価値商品、新しい売り方、新しい業態などをつくったりして市場にアジャストしているのではないのでしょうか。それ故昨今は、特に異業種交流が盛んに行なわれ、互いの知恵を出し合い、活性化につなげようとしているのが現状です。

しかしながら真に生活者が欲しているものがなんであるかを知り、提供しうる主体はいったい何人なのか。私はそれは新たな商人と呼ぶ流通に携わる人々で

はないかと思っています。何故ならあらゆる産業を編集しうる能力を一番近く備えていると思われるからです。しかし彼らは政治的、経済的、文化的、道徳的に十分知的であらねばならないし、強者は弱者を駆逐するのではなく協調しうる者が成功を収めていくのではないかと思います。そして、それぞれがかかわっている世界、その日々の商い、仕事の一つひとつの局面の中にかかわっている人々の暮らしの豊かさや幸せに自分はいったい何ができ、何をなすべきかを考え続ける志をもった商人が求められ、その理想とする内なる発現する力が時代をつくり、社会的構成を変えてゆくのではないかと思います。

それ故私は次の言葉が好きです。

尋ねよ、さらば見出さん、
門を叩け、さらば開かれん。
すべて求むる者は得、
たずぬる者は見出し、
門を叩く者は開かるなり。



節目の年と自覚

(株)タマイ 専務

玉井利明

不幸にも1月7日に天皇陛下が崩御せられ、元号も平成となりました。

昭和を惜しむ声もありますが、本年は平成時代のスタートの年であり、気持ちも新たに新しい時代に向けて邁進したいと思います。

さて今年は年男で10月に36歳になりますが、あえて年男を意識する年は始めての様に思います。30代前半から後半へと移行し、社会や会社における責任や立場からしましても節目の年と自覚しなければなりません。

人からしぶとい、根気強いと言われることがありますが、巳年のせいでしょうか？

悪く言えばしつこい、執念深いとも言えます。自分には実際そんなところがあると思います。しかし又、巳年は金が溜まるとも言いますから、良い方向の巳年でいこうと思います。最近つくづく思う事に、近年の日本の国際社会での位置や飛躍的な経済の発展には目を見張る思いがします。



私なりの人生を…

(有)吉野利工具 専務

吉野竹英

私は、以前から三十路になったら、一人前の男として……と思いつづけて来ました。

そして、その三十路を平々凡々として過ぎてしまったのです。そんな私にとって、今年の巳年は、もう崖縁に立たされた思いであります。

単に、親の七光りで生きてきた私にとって、振り返って見ると、仕事においては、自分の築いて来たものは何もありません。

そして今、弊社は、世代交代を早急に求められています。高度成長時代とは異り、今日の安定成長時代ほど、経営者の手腕を問われる時代はないと思います。より広い視野から、将来へより正しい方向性を見出し、決断、実行して行かなければなりません。

今日、情報化と多様化の雑踏の時代に生きている我々にとっては、それを見きわめるのをよりいっそう困

昨年2月にメーカーのNIESニューオフィス視察ツアーで、シンガポール、香港と視察して来ました。生活水準はまだ低いものの活気があり、先端では日本を凌ぐ面もありました。確かにこれからはアジア、太平洋地域の時代の到来なのかも知れません。

しかし残念ながら我が金沢、石川などの地方の時代はまだ未だの様です。

でもまずは我が社で活気付き、地域に貢献する事が第一と思います。それが間屋団地、金沢、石川の発展にも繋がる事と信じます。

昨年末、消費税導入、官公庁の第2・第4土曜閉庁が閣議決定され、金融機関も完全週休制を取る事になりました。

時代も平成時代となり、ますます目まぐるしく変化するこれからの社会に戸惑う事なく、機敏に対応して個人の節目の年と自覚し、新しい時代に飛躍したいと思います。

難にしています。「私には、リーダーシップを取れるか？」「私には、よきブレーンスタッフがいるか？」「私の仕事に対する情熱は？」……。いろいろな思いが、私の頭の中を、試行錯誤し疑心暗鬼におちいつてしまいます。

このような時にこそ、自分自身をしっかり持っていかなければなりません。私の好きな言葉に「自己確立」という言葉があります。

これは、自分が自分自身を寄り所とできる人間になることを言います。自分自身を頼れない人間に、どうして、人の上に立つことができようか、又自分の道が開けてこようか。

年頭にあたり、自分自身を今一度、叱咤し、一歩一歩私なりの人生を築き上げて行く所存であります。

1989年経済予測

商工組合中央金庫金沢支店

支店長 高田和征

新春を迎えるにあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げるとともに、皆様の当金庫業務についての変らぬご理解、ご支援に対し、改めて厚く御礼申し上げます。

昨年の方が国経済を顧みますと、年央には若干の円安局面が見られたものの、85年秋以降の大幅な円高に比べれば、総じて円レートは落ち着いた動きを示し、物価も原油価格の低下を反映して引続き安定した推移となりました。実体経済面においても国内需要が堅調に推移し、企業収益の回復、家計所得の増加による個人消費の盛り上がりに見られるように力強い景気上昇過程を辿った年でありました。

さて、今年度のわが国経済を展望しますと、昨年に引き続き個人消費、設備投資の堅調から、内需を中心に当面好況が続くものと見られます。ただ、景況の推移とともに急テンポで拡大してきた設備投資が生産能力化してくるにつれて、能力増強投資の伸びが低下し、全体の伸びもやや鈍化してくるでしょう。

ところでわが国に大きな影響を与える米国経済については、既に6年にわたって景気拡大が続き、失業率が相当低いこと、設備稼働率が高いことから、国内の需給要因によるインフレ懸念は依然根強いものがあります。これらのことから、FRBは引続き一連の金融引締措置を継続すると見られ、財政再建のため支出が抑制的に運用されることなどから、89年の米国経済は緩やかに減速するでしょう。また経済の減速に連れ、米国の貿易赤字も縮小傾向を示すでしょうが、貿易収支の改善にはなお長期を要すると見られることや、日米のファンダメンタルズに依然として差があることなどを背景に、円レートは、基調的には引続き緩やかな円高・ドル安傾向を辿る可能性が高いと考えられます。

こうした環境の中でわが国の国内の景気に目を向けて見ますと、家計部門では、引続き企業収益が好調なことや、雇用情勢の改善傾向を反映して、春闘ベア率、ボーナスなどの名目所得が増加を続けることと、所得税減税による可処分所得の増加も期待できることなどから、個人消費は引き続き堅調に推移するものと見られます。新製品開発など、企業サイドの需要開拓努力もあって、消費支出の高級指向が高まっていることも、消費に対してプラスの作用が期待できるでしょう。一方、住宅投資は、持ち家、貸家が既に減少傾向となっており、首都圏に対比較的堅調だった近畿圏や他の地方の着工も鈍化してきていることから見ると、89年も減少傾向が続く可能性が高いと見られます。

企業部門について見ますと、非製造業については、

内需が好調なことに加え、進展する情報化への対応等の独立的な投資も引き続き増加すると見られることから、底堅い投資が見込まれます。一方、製造業については、先に述べましたように、能力増強投資の伸びが次第に低下してくるものと見られます。そのため設備投資全体では依然堅調なものの、伸びは88年よりやや低くなるでしょう。

公共投資については、現在のような好況のもとでは、特に必要ないと思われませんが、基本的に社会資本の整備は進める必要があります、88年並の水準は確保されるでしょう。

輸出については、企業の円高に対する適応力がついてきたことから、89年も緩やかな増加が続くと見られます。米国の景気はやや減速しますが、欧州は引き続き順調と見られていることや、アジアでもNIESに加え、他のASEAN諸国の経済も伸びてきていることから、輸出は堅調に推移するでしょう。一方、輸入については、国内景気の拡大テンポが次第に緩やかになってくることを受けて、伸びは鈍化するものと見られます。

このような各需要項目の動きから、経済全体の実質成長率について見ますと、設備投資の伸びの低下、住宅投資の減少などから、その勢いは88年に比べ幾分弱まってくるものの、89年も88年に続いて内需中心に拡大は続くものと見られ、また、輸出が堅調な一方、輸入の伸びが鈍化することもあるため、実質経済成長率は、年平均で、一80年～87年平均の4%前後から潜在成長率といわれる4%台半ばに近い伸びに落ち着くのではないのでしょうか。ただ、米国の双子の赤字に対するブッシュ新政権の政策姿勢や、原油動向によっては、わが国経済も不安定の度を増大する可能性がないわけではありません。

金融面につきましては、これまで着実に進展してきた金融自由化の効果が浸透するとともに、小口預金の金利自由化という金利の自由化の最終局面を迎えて、本格的に大きな影響がでてくる年になるものと見られます。

最後に、組合員の皆様方の益々の御発展を心よりお祈り申し上げますと共に、私共金融機関は、これからも、より一層皆様のご期待にお応えできるよう不断の努力をいたし、経営、金融の良きパートナーとしてお役に立ちたいとお願いいたしております。どうか本年もよろしくご支援賜りますようお願い申し上げます。

金沢問屋センター 地域流通VANの構築に向けて

(協)仙台卸商センター、南東北総合卸センター(協)視察

《出席者》

副理事長	富木医療器(株)社長	富木 昭光
企画委員会	(株)堀川商店社長	堀川 善昭
委員長	矢部物産(株)社長	矢部 嶺男
副委員長	荒木商事(株)専務	荒木 徹
委員	伊藤洋品(株)社長	伊藤 淳蔵
〃	共栄電機(株)専務	高桑 幸一
〃	クスノキ(株)社長	楠 幸雄
〃	(株)ゴシハラ専務	越原 悠三
〃	島田商事(株)社長	島田 良造
〃	(株)永井商店専務	永井外志明
〃	明 希 (株)常務	石黒 裕明
(協)金沢問屋センター事務局		山下 義広
(協)金沢問屋センター事務局		関戸 孝

近年我々卸売業を取り巻く経営環境から、消費者ニーズの多様化、個性化、高級化といった傾向がみられる一方、情報化機器の技術革新によって、我国の流通業における情報化は一段と高度化しつつあり、北陸地域の流通・情報の拠点として発展を目指している金沢問屋センターとしては、この問題に積極的に取り組んでいくために、過去近代化研究会からのビジョン提言を発端として、前企画委員会での2年にわたる基本的調査・研究後の情報化と物流に関する答申を基に、先ず新企画委員会では、地域流通VANの事業具現化へ向けてのプラン作成活動が開始されたのである。

さて委員会では、既に流通業の新しい力として地域流通VANサービスを開始している仙台卸商センターと南東北卸センターの視察研修を行い、主に情報化問題についての意見交換をしてきたのであるが、その感想報告会を過日、堀川委員長以下企画委員会で行った。

堀川 仙台と郡山の視察は主に情報化問題の意見交換をしてきた。本日は、この感想とこのあとの委員会のすすめ方について協議したいと思うが、各委員の感想、感触またこの事業を推進していくにあたっての留意点等について述べて下さい。

高桑 仙台は団地、周辺地域も含めて規模的にびっくりした。情報化については、当団地は遅れているなど感じた。ある程度、思い切った決断も必要だが、国・県の協力がないとだめではないか、成功するかは不安である。

永井 仙台はすべての共同事業をすばらしくやっていると思う。当組合でも、ある程度の件数ができたらやるべき。やっぱり、乗り遅れたら非常にこわい。

荒木 仙台は進んでいると感じたし、特に全市民のICカードの使用は発想的にもすばらしい。共同配送も見習う点は多々ある。

伊藤 業種によってできる、できないといわれたが、メーカー主導のところはやらざるをえないし、導入しなければこれからの商売にあてはまらない。今から小さい部分でも導入して、時代を見つめなければならない。大きな企業の犠牲的精神がないとできないと言われたのが頭に残っている。

島田 仙台は規模がかなり大きいので、共同的な発想についても差がでてくるのでは。情報ネットワークは確かに必要な時代になってきている。これから必要になってきている会社が先端をきって、将来の夢として参加して、効率の良い形でスタートしないとふんざりがつかない。全員が足なみをそろえるのは難しい。

楠 共同事業としては、VANと物流は一体でないといけない。当委員会にVANについて業務上関心のあつる方、将来的に真剣に考えている方を含めて話を進めていった方がよい。比較すると国、県、市等のバックアップの仕方が違うのでは。強力なチームワーク作りが必要だと思う。

又、当委員会ではVAN以外の他のテーマも部門制にしては。

矢部 VAN構築にあつた情報、金融、物流などの部会に分けて、専門的な人を入れて討議をしては。調査、研究、視察が終わった段階なので、一本立ちできるようにしたい。例えば金融・物流は専門の人たちを入れて、案を検討していけないか。楽な状態で具現化した

い。早くやりたい。

関戸 運営方式として前年度の提案の中に自主、委託、共同があり、前委員会では共同を提言した。仙台は、自主運営方式で、現在参加者が10社しかないのに低価格でしている。それは、昔からの共同計算センターの利益で吸収している。又、郡山は委託運営方式だ。

当団地は中間の共同運営方式を考えているが、やられる方々が責任をもって取り組んで、必ず参加していかなければ成功しないと思う。競争相手のある共同事業では、値段の安い方へ流れる傾向があり、VANでも同じようなことが予想される。参加企業の一致した団結がないとできない。

富木 立場上、具現化していただきたいが、産学共同をも考えて小委員会を設けてやらなければならない。視察をしてきたのだから、どれがいいのかを議論して5年後、10年後を想定した事業をしたい。組合員が共有感をもって、受信ではなく発信基地へ。

提案として、(1)活力のためと労務対策を含めてのビデオ作製。そしてテレビを購入してビデオ放映してはどうか。(2)700万円補助の活性化事業を。以上、前向きに進めていただきたい。

堀川 各委員のご感想をうけたまわったが、現実に関後どうすすめるかが課題。確かにVANだけが組合の生き残る道ではなく、他にもいっぱいあると思うが、前委員会からの流れもあり、とりあえずVANを選ばせていただいた。又、今までの各委員会活動は事務局におんぶにだっこみたいな面があり、各セクションにおいても、もっと考えていただきたいと思う。

富木 百貨同業会があるが、その中でも活性化を図りたい。

伊藤 繊維同業会でも、紳士、婦人洋品、呉服では全然違う。

富木 縦割り、横割りがうまく機能していない。

伊藤 野球のリーグ戦でも同じことが言える。

富木 組合全体の企画を考えるのが当委員会で、各委員会でもいろいろ企画してほしい。

堀川 考えるに当委員会は提言して、また同じことを研究している。

島田 そういう時は組織を考え直さないと前へ進まない。

富木 現在、当委員会は実行部隊になっているが、1年間議論して終わるのでないか。

楠 VANという大黒柱について、委員会として積極的に参加できる人に集まってやっていった方がよいと

思う。委員会だけでしていたら、あとから意見がでくるのでないか。専門委員の話も必要。

堀川 今年度末までにプランニングして、提言ではなく上程したい。

矢部 委員長から指示してもらったらできる。

富木 正副理事長会でも意見を反映させたい。

堀川 共同事業の進め方とポイントとして、目的と戦略的な位置づけを明確にし、事業計画として目標年次の設定、資金負担計画、予想損益計画、実施体制、設備投資計画、フォロー体制に決定が必要。運営段階の留意点としては、(1)人材を得る、(2)営業が必要である、(3)経営責任の所在を明確にし、企業性を確立、(4)組合員の全てが権利と義務の思想を持つ、(5)事業が一定規模以上になったら専従の経営者が必要である、と中小企業事業団の報告書にまとめてある。

なぜ我々が共同事業をやるのか。割り勘的な考え方でやるのかそれとも多数集まるのに意義があるのか、又、コストダウンではなく、必要不可欠としてやるのかを原点としてとらえたい。

私、個人的にはVANのシステムではなく、コンピュータの共同利用を当初考えた。ここからは共同計算センターがでてくるが。VANに執着した場合、オリジナルではメリットがあるのか。

物流は業種によって変わってくると思う。

富木 地域の卸売業としての目的、意識、共有感は何か。

石黒 VANを必要だと認識があるが、程度の差がある。コンピュータを制しないと業務が成り立っていかない。コスト面では割り勘的な考え方、今後、VANは必ず1人歩きしていくから、支配、被支配が必ずでてくる。考え方はそれぞれあるが、どこかでイニシアチブをとりたいと考える。ざっと年6,000万円、月500万円の人件費、ハードがかかる。導入部分としては割り勘的。そこに付加価値を加えるのは次の段階。コンピュータ投資は、これからますます高くなると予想される。被支配されるのはおもわしくない。委託するのもいいが、運営自体は握っておきたい。

富木 物流業者がどうでてくるか、危機感がでている。

伊藤 コンピュータ化の時代に、VANは1つの業務。

矢部 私の業界でもコンピュータを導入するか、しなやかで差がでてきている。隔差がでてきて生き残れなくなる。

伊藤 クリーニング店でさえ、ハンディターミナル、バーコードを使って情報管理をしている。